

雜 報

人 事

<p style="text-align: center;">鐵道醫 濱 田 豊 介</p> <p>門司鐵道病院眼科醫長ヲ命ス (十二月二十日)</p> <p style="text-align: center;">廣島衛成病院附 陸軍一等軍醫正 奥 宮 松 枝</p> <p>補熊本衛成病院長 (十二月二十一日)</p> <p style="text-align: center;">九州帝國大學教授 赤・岩 八 郎</p> <p>外科學第一講座分擔ヲ免シ外科學第一講座擔任ヲ 命ス (十二月二十日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學助教授從六位 田 川 輝 太 郎</p> <p>任岡山醫科大學學生主事兼岡山醫科大學助教授 敘高等官五等</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學教授從六位 鈴 木 稔</p> <p>兼任岡山醫科大學學生主事 敘高等官五等 (十二月二十四日)</p> <p style="text-align: center;">鐵道醫 濱 田 豊 介</p> <p>年俸參千百圓下賜 (十二月二十四日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學學生主事 田 川 輝 太 郎</p> <p>七級俸下賜 (十二月二十四日)</p>	<p>敘正六位 從六位 柿 沼 吳 作 (十二月十五日)</p> <p>正三位勳二等 荒 木 寅 三 郎</p> <p>敘勳一等授瑞寶章</p> <p>正五位勳四等 小 南 又 一 郎</p> <p>敘勳三等授瑞寶章 (十二月二十八日)</p> <p>敘勳六等授瑞寶章 正七位 黒 木 武 一 (十二月二十八日)</p> <p>敘從六位 正七位 田 川 輝 太 郎 (十二月十五日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學助教授 筒 井 徳 光</p> <p>眼科學研究ノ爲獨逸國へ在留ヲ命ス (一月八日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學教授 林 道 倫</p> <p>本俸四級俸下賜</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學教授 津 田 誠 次</p> <p>本俸六級俸下賜 (一月十八日)</p> <p style="text-align: center;">臺灣總督府臺北醫 學專門學校教授 横 川 定</p> <p>三級俸下賜</p> <p style="text-align: center;">臺灣總督府臺北醫 學專門學校教授 杉 山 九 一</p> <p>五級俸下賜 (十二月二十八日)</p>
---	---

- 吉柄生一君 は豫て兵庫縣赤穂町に於て開業し居られしか今回開業を中止し再び岡山醫科大學生理學教室に於て研究に従事せられたり
- 上野 直君 は今般三重縣志摩郡高砂病院長として就任せられたり
- 秋山 彰君 は今般神戸市高祖病院を辭し兵庫縣赤穂郡赤穂町に於て開業せられたり
- 淵田俊治君 は先年大阪市島ノ内病院を閉ち靜養中なりしか今般同市港區市岡元町二丁目に診察所を設け診療に従事せられたり
- 橋 義一君 は先般縣立神戸病院を辭し明石市追手町に於て開業せられたり

○赤尾 壽君 は今般東京市下谷區入谷町田谷産婦人科醫院を辭し東京府岩淵町字稻付に於て開業せられたり

○小堀文哉君 は今般岡山醫科大學稻田內科教室を辭し本縣小田郡笠岡町に於て開業せられたり

◎學位授與決定 西澤義一君及び江幡保君は豫て論文を東京帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしか舊臘 22 日の教授會に於て醫學博士の學位を授與すへきものと決定せり兩君の主論文は左の如し

西 澤 君

特異性沈降物並に感作抗原の抗原的作用に關する研究

江 幡 君

家鶏家兎及び人類の胎兒に於ける腺臟内ラ氏島の發生に關する研究

上野直君は京都帝國大學醫學部に論文を提出し學位を請求し居られしか舊臘 17 日の教授會に於て醫學博士の學位を授與すへきものと決定せり其主論文は左の如し

甲状腺機能障礙の際に於ける血液の物理化學的變化に就て

◎學位授與 黒瀬巖、池田保、谷高三郎の 3 君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか舊臘 3 日の教授會を通過し本月 10 日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

黒 瀬 巖 君

主 論 文

尿崩症 = 關スル實驗的研究ト腦下垂體製劑ノ尿分泌抑制作用 = 就テ

- 其 1. 腦下垂體製劑ノ「ガマ」ノ血管ニ及ホス影響並ニ之ト「アドレナリン」トノ比較 (本誌第 454 號 = 發表ス)
- 其 2. 腦下垂體製劑ノ血管作用ノ本態 = 就テ (本誌第 455 號 = 發表ス)
- 其 3. 2, 3 利尿劑ノ「ガマ」ノ腎臟血管並ニ尿量ニ及ホス影響 附・灌流滴數ト尿分泌トノ關係 (本誌第 456 號 = 發表ス)
- 其 4. 牛ノ腦下垂體各部浸出液ノ血管作用 = 就テ (本誌第 465 號 = 發表ス)
- 其 5. 1, 2 動物ノ血液濃度, 淋巴, 尿分泌並ニ組織含水量等ニ及ホス「ピツイトリン」ノ影響 (追テ本誌 = 發表ノ豫定)
- 其 6. 「ピツイトリン」ノ水分代謝ニ及ホス影響ト消化管ノ意義 = 就テ (追テ本誌 = 發表ノ豫定)
- 其 7. 牛ノ腦下垂體ノ神經部並ニ中藥ノ浸出液ノ血管作用ノ比較並ニ腦下垂體分泌物ノ作用路 = 就テ (追テ本誌 = 發表ノ豫定)

參 考 論 文

1. 黃疸出血性「スピロヘータ」病ノ黃疸ハ果シテ溶血性黃疸ナリヤ (金子廉次郎, 黒瀬巖共著) (大正 12 年 10 月日本病理學會々誌 = 發表ス)
2. 黃疸 = 關スル實驗的研究
 - 其 1. 肝臟ノ格子狀纖維 = 就テ (橋本政一, 黒瀬巖共著) (本誌第 448 號 = 發表ス)

其 2. 黃疸出血性「スピロヘータ」病ノ血液所見ニ關スル實驗的研究

附. 鬱滯性並ニ「トルイレンヂアシン」黃疸ノ血液所見トノ比較 (橋本政一, 黒瀬巖
共著) (本誌第 451 號ニ發表ス)

3. 尿崩症ニ關スル臨牀的觀察

其 1. 一般臨牀的觀察殊ニ其腎臟機能ニ就テ (本誌第 463 號ニ發表ス)

其 2. 腦下垂體製劑ノ作用ニ關スル實驗並ニ 2, 3 藥物ノ尿量並ニ尿成分ニ及ホス影響 (本誌第 464 號ニ發表ス)

池 田 保 君

主 論 文

鳥類卵細胞ニ於ケル細胞小機關殊ニゴルジ氏裝置ノ發生的變化ニ就テ (昭和 3 年 7 月「ホリア・
アナトミカ・ヤボニカ」ニ發表ス)

參 考 論 文

1. 神經ノ再生及ビ變性機能ニ於ケルシュミットランデルマン氏割ノ變化ニ就テ (追テ岡山醫
科大學紀要ニ發表ノ豫定)
2. 家兎輸卵管及ヒ子宮ノ上皮細胞ニ於ケルゴルジ氏裝置ノ發生的, 周期的及ビ妊娠的變化ニ
就テ (追テ岡山醫科大學紀要ニ發表ノ豫定)
3. 「コレステリン」及ビ「レチチン」ノ鳥類卵細胞ゴルジ氏裝置及ビ「ミトコンドリエン」ニ及ボ
ス影響ニ就テ (追テ岡山醫科大學紀要ニ發表ノ豫定)

谷 高 三 郎 君

主 論 文

肺原基ノ發生ニ就キテ

豚胎兒ニ於ケル檢索 (本誌第 463 號ニ發表ス)

參 考 論 文

1. 喫煙中ニ於ケル酸化炭素ノ定量及ビ其衛生學的意義ニ就キテ (1907 年獨逸國 ウエルツブルヒ
醫科大學學位論文トシテ發表ス)
2. 人胎兒ニ於ケル肺臟ノ形態學的發生ニ就キテ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)